

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170800989		
法人名	メディカル・ケア・プランニング株式会社		
事業所名	グループホームつどい小宮家		
所在地	埼玉県越谷市千間台西4-3-14		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和4年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の中、目の前に大きな公園と裏方には桜の咲く時期に桜並木が一望でき、とても環境に恵まれた中でお過ごしいただける施設です。全室個室でプライバシーを重視した住環境と、くつろげる和室スペースと檜風呂が自慢です。「その人らしい生活」を送っていただくために利用者に寄り添い、これまでの生活リズムをできるだけ守れるよう支援を行っています。スタッフ全員「利用者第一」のもと接しており、スタッフ間のコミュニケーションも良好なため親しみあるゆったりとした雰囲気です。アットホームな日々をお送りしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

つどい「小宮家」は東武伊勢崎線せんげん台駅から徒歩圏内、静かな住宅街で目の前には公園あり、環境の良い場所に位置している。鉄筋3階建ての建物内の2階、3階が2ユニットのグループホームで1階にデイサービスと居宅支援事業所が併設している。各居室はリビングを囲むように配し、全室ナースコール対応で安心とプライベートを保っている。「時間にとらわれず、できることを奪わない」を信条に、食事の用意を役割分担しながら手伝っていただいている。ホームでの生活やイベントの様子を2カ月に1度「グループホームつどい『小宮家』通信」を発行している。従来は徒歩圏内の大きな商業施設に出掛け、買い物などを楽しんでいたが、コロナの為、外出やイベントが出来ない状況にある。職員は豊富な介護経験者が多く、勤務年数も長く、働きやすい環境が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小宮家10の約束を掲示しご利用者様一人一人の生活感を尊重しグループホームにおいて一般的に運営する最低限のマナーとして掲げております。	「つどい10の約束」は、よりよいサービスを提供するための【10の約束】を理念に掲げ、スタッフ全員が「心地良い空間」づくりに努めている。職員がいつでも目に入るように、1階玄関やトイレの中に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい	新型コロナウイルス蔓延以降、運営推進会議の見送りやボランティアの受け入れが感染症防止対策により中止になっている状況。コロナ禍以降地域の交流ができていない。	今まではボランティアを積極的に受け入れていたが、現在はコロナ感染防止のため中止している。自治会に加入しているため、回覧板が回ってきており、町内の情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス蔓延以降、近隣地域との交流ができていない状況だがクレームやトラブルなく運営できていることから最低限の理解は得られていると思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス蔓延以降、行政から動向見て落ち着くまでは中止とのことで通達あり。感染症対策として通常の面会中止をご家族に通達。事業所、会社ともに動向次第で面会を再会する方向。	コロナの終息が見られず、年6回の運営推進会議の開催ができていない。越谷市や会社の方針により、感染対策を工夫して再開する予定である。	コロナの感染防止により、運営推進会議を開催していないが、さまざまな手段を検討し、工夫しながら外部からの意見を聞く機会を得ることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員受入れなどで、定期的に連携を取っている他、窓口への訪問・電話連絡を通じて連携を取っている。	市よりメールにて新型コロナ関係やスキルアップ研修の情報を得ている。市のアンケートやグループホームの事故報告等はメールで回答している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに全スタッフで取り組み、施錠を含め利用者の行動を制限しないよう取り組んでいる。転落防止の為、ご家族の希望により四点柵を行っている利用者に対しては同意書を交わし、期限を決めている。	日中はフローア出入口等、施設内の施錠はしていない。現在、身体拘束は行われていないが、拘束が必要な時は家族や職員と話し合い、同意を得たうえで経過を観察して行うようにしている。	現在、身体拘束が行われていないため、身体拘束会議や研修が行われていない。定期的な委員会や研修の開催が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種会議の際に定期的に表題を挙げ職員ケアと同時に注意、防止を務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修をメインに実施を行い、1個でも多く気づいたことや学んだことを現場で活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退去時なるべくわかりやすい言葉選びを用いてご説明すると、合間をみてご質問をうかがうよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様からは24時間意見、要望を職員、管理者にお伝えできる状況を整え、ご家族様からはお電話や来所された際にご意見や要望を伺い対応している。	利用者の普段の会話や問いかけにより、意見を聞くようにしている。家族からは荷物などを届けに来たときや電話で意見を聞いている。意見の内容によっては本社が対応する場合もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いついかなる時も職員の話を受け付ける体制を取り、運営や対応などを検討し他職員とも情報の共有をしながら反映に繋げている。	職員の意見は会議や普段の業務中に聞くようにしている。しばらく行っていなかった個人面談を再開し、意見が言いやすい環境を整える予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数の長い職員さんが多く関係性としてお話出来ているように感じますが、しっかりとお話出来る場として個人面談を定期的に行うことが重要と認識しまして今後努めていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でリモートで開催する外部研修も多くなり受けたいが、PCや静かな環境が無く参加出来ない形が増えて来ました。社内での研修や職員さんが感じている内容などを考慮して社内研修の質を向上する必要ととらえ準備を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流会などが中止となっているので営業で居宅支援事業所や、グループホームにうかがえる機会を作るよう検討しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で一番困っている事や何をしてお過ごししていきたいかをわかりやすく伺い、生活の質を維持、向上に向けてプラン作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の時に合間を見て疑問に思うことや不明点をお伺いし、ご家族様に安心、安全に施設で過ごせる環境をお伝えすることを心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様にそのサービスにおける目的と勤め方をしっかりと整理してお伝えし、導入する対応を努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームのゆったりと流れる時間が関係づくりとしても環境が良いこともあり、職員一人一人コミュニケーションを取れるよう環境づくりを整備するよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会中止を余儀なくされる事態となったため少しでも様子が変わるような場合はその旨をご連絡し、ご家族様に持参品などをお願いいただく際にも当日までのご様子をお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、感染症対策としてご本人が把握されている方、ご家族が認知しておられる方に限り関係性の維持、支援を努めております。	新型コロナ感染防止のため、家族面会は窓越しで行われている。まん延防止により面会を抑制しており、現在は馴染みの方の面会がなくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団で出来るレクや一同フロアに集まれる環境を整備して利用者様同士や職員と関わり合いを持てるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様のご意向をお伺いし支援させて頂けることがあればご相談など対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なアセスメントを実施。それまでの本人の意向と希望を現状の意向や希望の確認をしケアプランに反映させています。	入居前の実調で本人、家族の意向を確認している。入居後は会話の中で確認したり、困難な方は様子を観察し、職員からの情報を得ている。家族からは定期的に電話等で確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に趣味や好きな事などを伺い施設でも行えるものはそのままの形で行っていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人にご本人の情報や感じていることを引き出し現状の把握や必要なケアの把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議の定期開催と必要におじてサービス担当者会議を開催し、ご本人様が安心して過ごしいただける介護計画を作成するよう心掛けております。	計画作成担当者が中心となり本人、家族の意向を確認し、課題を見つけ計画書を作成し支援にあたっている。定期的な担当者会議を開催し、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りノートに対応などを記載し職員によって異なる対応にならないよう情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のため、内容によっては積極的に出来ないサービスも出てきている中で、施設で行える行事などで行えるサービスの検討をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にスーパーや公園があり少し日程や時間の調整を行うことで容易に行える環境であるがコロナ禍のため見合わせている。落ち着いたら積極的に利用したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医や近隣の医療機関と円滑な対応が出来るようにご家族や利用者様に説明し納得いただける支援を行っている。	定期的に訪問医と歯科医による訪問診療があり、今までのかかりつけ医や専門医の受診を希望する場合は家族対応となっている。希望や必要に応じ、訪問看護師や訪問マッサージの利用ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段見られない様子や小さな状態変化が度々見かける様子などお伝えした方が良いと思うことは個別往診や文書でお伝えしたりと対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣医療機関と円滑に入退院を行えるよう情報交換や対応に気を付けて関係作りをおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時のご説明や重度化に近い状態になった際にご説明する機会をつくり施設として行えることを状態をみながらお伝えし、職員にもしっかりと説明し支援に取り組んでいる。	ホームでは終末期の対応は行っていない。重度化になる前に主治医や家族と話し合い、ホームで対応できることを説明し理解を得るようにしている。重度化した場合は病院への転院に向けた対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にマニュアルを復習いつでも対応できるよう対策を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や避難経路を整備したりと職員一人一人の意識付けを忘れないよう努めている。	今年度は避難訓練が実施できていない。災害用の備蓄品は水と缶詰を準備しており、今後、品物を増やしていく予定である。	いつ起きるかわからない災害に対し、定期的に訓練を行い備える必要がある。火災だけでなく地震、水害も視野に夜間対応や垂直避難も必要であり、普段から近隣の協力が得られるよう、努めていくことが求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳を大切に声掛けや対応に気を付けて対応をしている	利用者への言葉かけは考えながら行っており、なれなれしくならないように気をつけている。入室の際はノックをして声をかけ、入浴の時は希望があれば同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	グループホームの特徴であるゆったり流れる時間をなるべくご利用者が個人でやりたいこと、職員や他の利用者様と交流したいことなどを優先しお過ごしいただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人がやりたいことを優先し、業務改善を行いより良く環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が希望されているおしゃれや基本的な整容、身だしなみは声掛け等行い支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安心安全に行えるよう十分な見守りを行える環境で下膳や片づけを行って頂き支援している	カロリー計算されたメニューをもとに、職員が調理を行い提供している。利用者にテーブルをふいてもらったり、できる人には食器の片づけを行っていただいている。季節に合ったイベント食やホットケーキやサンドイッチ等の手づくりおやつが楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量と水分摂取量を記録し、必要に応じて栄養補助剤などを使用し支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の協力を得ながら口腔ケアの仕方を教授していただき一人一人にあった対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尊厳を大切に、なるべくトイレでの排泄をできるように常日頃の状態や排泄パターンを観察しいち早く支援を行えるよう努めています	トイレで排泄される方がほとんどであり、できることは自身で行っていただき、自立が難しい方には職員がさりげなく支援をしている。紙おむつを常時利用の方は定期的に交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や牛乳、ヨーグルトなどを定期的に提供し服薬以外で便秘予防をカバーできるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る範囲内でご利用者の要望に応えられる入浴のご希望を提供、支援をおこなっている。	入浴は週2～3回を基本とし午後に支援しており、拒否をされる方には無理強いせず、タイミングを図り声掛けや日をずらすなどの対応をしている。檜の浴槽に個浴対応でゆっくりと入浴することができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく睡眠サイクルが乱れないように気を付け、夜間入眠や昼寝を一人一人に合わせて様子観察している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居時に一人一人の薬の情報を職員に周知しております。往診後に薬変更があった場合も申し送りをして全職員に周知して対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍のため満足のいく外出レク、買い物が行えない状況である。コロナの状況に左右されるがご家族様に制限ありの面会を実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍のため施設内で歩行訓練や日光浴を行うところまでとどまっている。	新型コロナにより外出や散歩などができない状況であり、現在の外出機会は家族対応の受診のみとなっている。職員は従来行っていた公園等の外出の再開を望んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居契約時にお小遣い管理の同意書の記入をさせて頂いており、ご自身で管理できる方はそのまま所持し、管理が必要な方は職員管理で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば手紙や年賀状を記入したり、記入の支援を行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の掲示物を張り出したり、経路の障害になるようなものは置かないよう環境整備を行っている。	エントランスからエレベーターでフロアに入ると入り口がガラス張りで全館を見渡せ、とても明るい雰囲気となっている。壁には季節感のある利用者の手づくり作品や職員手づくりのカレンダーを飾ってアットホームを演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人の意思を尊重し、いつでも共用スペースと居室の行き来を行えるよう環境づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険なものや煙が出るもの以外でご入居前より大切にされていた物をお持ち込みいただき一人一人個性がある居室になっている。	居室には備え付けの家具やベッドがあり、使い慣れたテレビなどを持ち込み、中には仏壇を持ち込む方もいる。家族写真などを飾り、自分の部屋として過ごしやすい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器拭きや掃除などご自身がやりたいことを行って頂きしっかり見守りし安心安全に生活ができるよう工夫している		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練がコロナの影響により避難場所や経路に変更などが無いか、地震、水害、火災に対応できるよう見直しを行う必要がある。	避難経路、避難場所の確認	消防署や近隣の避難場所への確認を行い現在の状況に合った避難訓練を実施する	12ヶ月
2	6	身体拘束の勉強会や研修会を定期的に関きしっかりと知識を獲得し、ご利用者様の対応を行う必要がある。	年2回以上の実施を行う	身体拘束の委員会を見直し年間計画を作成して最低でも年2回を実施できるようにする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。